根の研究（Root Research）7，82（1998）

報　告

第９回根研究集会に参加して

日本環境測定　土肥哲哉

第９回根研究集会が 1998 年６月６日から７日の２日にわたって愛知県東栄町にある森林体験交流センターで開催された。参加者は約 40 名程であったが、口頭発表は６課題、ポスター発表は９課題および特別講演は３課題であり、根の生理特性や根粒菌といったミクロな領域から圃場における根系形態や根出液速度などのフィールド報告と幅広い分野からバランス良く話題が提供された。また、特別講演では岡本氏による樹木の根系導管電位（TRP）測定や正木氏によるマツ材線虫による白根の影響と根系仮導管電位に関する講演があり、特に普段樹木とはあまり縁のない私にとっては新鮮なものに感じられ、根系導管電位は初めて聞くことだったのでとても興味深いものであった。研究集会の詳しい内容の報告については事務局の方に譲るとして、今回の集会について個人的な感想を少し述べたいと思う。今回の研究集会の最大の特徴は山里の森林浴・ハイキングや夜空のもとでバーベキュウを楽しみながら互いの交流を深めることが出来たことである。今までの集会は大学の施設を会場としたものが多かったため、自然にふれ合う機会は少なかったが、今回は自然を十分に堪能しながら根に関する様々な議論ができたことはとても有意義であった。

実は研究集会の前日、私は京都で行われていた環境化学学会に参加し、市内の豪華な会場で多数の報道陣が詰めかける中で”ダイオキシン”,”環境ホルモン”などの最近注目される問題について様々な議論が交わされた。しかし、議論は混沌としていて解決のための前進・まとまり・方向性は見受けらず、空回りした感じであった。このような息苦しく肩のこる学会に比べると東栄町の研究集会はシンプルであったが十分リラックスした雰囲気で行われた。このような静かな場所で”根”や”環境”などをゆっくり考えてみることはとても大切と思われた。

最後に２日目のエクスカーションで名古屋大学の巽先生が研究集会の締めくくりとして、根の研究者は農業の現場との交流を大切にしなければならないと言われたのがとても印象に残り、充実した２日間であった。

TETSUYA. DOI